

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ナウ

Network Now

2019 No.520

4 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



2018年度 第8回理事会 開催される

2019年2月23日(土)、2018年度第8回理事会が本会事務所で開催された。出席者数は24人であり、本理事会は成立した。

開催に先立ち、本会理事である西貝圭子氏により「がん患者会の役割と課題—その変化について—」と題して、特別講演が行われた。がん患者会の歴史や役割および活動内容の紹介ならびに課題という内容であった。

午後2時より、2018年度最後の理事会が開催された。初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、2019年1月1日付で医師法施行規則等の一部を改正する省令が施行され、診療放射線技師などの免許証に旧姓の併記が可能となったことについて。2つ目は、2020年度診療報酬改定に向けたアンケート調査のお願いについて。3つ目は、天皇陛下御即位三十年奉祝委員会が発足し、委員に中澤会長が選任され、本会としても祝賀にご協力していくことが話された。

主な議題は「2019年度事業計画案について」「2019年度事業予算案について」「第80回定時総会開催について」「諸規定見直し案について」「第37回日本診療放射線技師学術大会候補地について」「2021年第23回AACRT国内開催について」「本年度の永年勤続表彰者・功労表彰者について」「JART委員会委員任命について」「会誌目次案・Network Now台割案について」「入退会者・除籍者・免除者の承認について」であった。

報告事項は「執行理事報告」「内閣府立ち入り検査について」「期中往査報告」「会員動向報告」「月次決算報告」「厚生労働省関連委員会報告」「ダイバーシティ解散について」「学術教育委員会報告」「新生涯教育システム委員会報告」「国際委員会報告」「編集委員会報告」「広報委員会報告」「調査委員会報告」「会員情報システム委員会報告」「災害対策委員会報告」「統一講習会実施運営委員会報告」「診療報酬政策立案委員会報告」「医療安全対策委員会報告」「入会促進委員会報告」「人材育成委員会報告」「第35回埼玉学術大会について」「地域理事報告」「医療被ばく低減施設認定更新報告」であった。



議題の「2019年度事業計画案について」では、中澤会長から総括として10項目の主な柱の説明と、江田理事より事業の詳細項目について説明があった。「2019年度事業予算案について」では、小田理事より正味財産増減予算書案および事業ベースの収支予算書案の説明があった。昨年定時総会で質疑として挙げられた内容を考慮し予算案を策定したことが示された。また事業計画案と予算案の相互性を保った策定を行う要望などが挙げられ、内容の審議が行われた。「諸規定見直し案について」では、熊代副会長および上島事務局長より労働時間法制の見直しに伴う就業規則の改正、就業規則、パートタイマー就業規則の案について、江藤理事より災害支援認定診療放射線技師規程の案について示された。「第37回日本診療放射線技師学術大会候補地について」「2021年第23回AACRT国内開催について」では、江田理事と篠原理事より東京都が立候補したこと、AACRTが併催であることが説明された。一部、詳細な審議の末、全ての議題が賛成多数で承認された。

最後に、江田理事より今後のスケジュールの確認があり、本理事会は終了した。

詳細な内容は、2018年度第8回理事会議事録(抄)を参照されたい。

2018年度 災害支援診療放射線技師研修会 開催される

2011年の東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原発事故を機に、原子力災害や放射線スクリーニングサーベイについて会員の関心が高まった。そしてこの数年は熊本地震、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震などの自然災害が多発したことで、風水害・地震などの激甚災害を含めた支援態勢の構築が求められるようになった。日本診療放射線技師会は、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を備え、災害支援チームの一員として活動できる災害支援診療放射線技師の活動を推進している。

2018年度災害支援診療放射線技師研修会は、その災害支援の一環として、2019年2月24日(日)に本会事務所講義室で参加者数29人(定員30人)により開催された。本講習会の講師は、過去の災害で実際に支援活動を経験されている方々であり、「災害の概要と関連法規」「災害時医療の概要」「放射線災害の特徴と防護および緊急被ばく医療」「医療施設への撮影業務支援の留意点と管理区域外X線撮影」「放射線災害での被ばく相談対応」「放射線サーベイ・除染」「避難所における下肢静脈超音波検査の留意点」についてご講義いただいた。実技は参加者を5班に分け、放射線サーベイ実技、下肢静脈超音波検査実技を行った。今回の研修会では、タイベックスーツ着脱実技や被ばく相談対応、医療施設での放射線撮影業務支援に関する講義を盛り込み、診療放射線技師に期待される支援活動を見据えた内容であった。今回参加された受講者のほとんどは下肢静脈超音波検査の未経験者であったが、プローブの持ち方や動かし方、基本走査法や走査上の注意点などについて、講師が受講者一人一人に丁寧に指導し大



変好評であった。超音波検査の未経験者については、今後も継続して走査の実技練習ができる機会や環境づくりが課題となっている。

本会は、2019年度より災害支援認定診療放射線技師の運用と、激甚災害における会員被害調査および義援金の運用も含めた総合的な支援態勢の整備を進めている。1人でも多くの会員が本会の進めている災害対策・支援活動に、ご協力いただければ幸いである。

最後に、本講習会開催に当たりご協力いただいた講師の皆さま、超音波装置をご提供いただいた株式会社日立製作所、コニカミノルタ株式会社、富士フィルムメディカル株式会社のスタッフの皆さま、また日本診療放射線技師会関係各位に感謝を申し上げます。
(理事 江藤芳浩)



2018年度 第2回 JART-JSRT定期懇談会 開催される

2019年2月8日(金)午後4時より、本会事務所で本年度2回目の日本放射線技術学会(JSRT)との定期懇談会が開催された。この懇談会は年に2回、定期的にJARTとJSRTが連携協議や情報共有のために開催している。本会からは中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、中村理事、上島事務局長、木村専門職の6人が、JSRTからは小倉代表理事、船橋副代表理事、錦副代表理事、奥田副代表理事、白石業務執行理事、宮高事務局長の6人が出席した。



本会から、第34回・第35回日本診療放射線技師学術大会について、診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会について、医療放射線の適正管理に関する検討会について、医療機器保守点検指針に関する研究について、業務拡大に伴う統一講習会について報告した。

JSRTからは、第46回日本放射線技術学会秋季学術大会について、今後の学術大会について、ミャンマー教育支援について報告があった。

また2019年のJART-JSRT合同市民公開講座についてJSRTから提案があり、開催テーマを心臓疾患として、8月24日(土)に岡山県岡山市で開催する。内容は、医師による心臓疾患に関する講演、JARTとJSRTからおのおの選出した診療放射線技師による、心臓疾患に関する検査と検査装置、診療放射線技師の心臓疾患の検査への関わり方、さらに心臓疾患における栄養指導についての講演を企画した。

今回は、2019年8月ごろJSRT事務局で開催される予定である。

2018年度 国家試験問題評価委員会 開催される

2019年2月21日(木)に実施された、第71回診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的に、今年も2月24日(日)に国家試験問題評価委員会が本会会議室で開催された。

本委員会の目的は、試験問題の内容が適切であったか、出題傾向に偏りがあるか否か、そして試験問題の難易度など、全ての問題に対し各委員の皆さんからの意見を集約し、厚生労働省医政局医事課試験免許室に意見答申書を提出するものである。そのため本委員会は、国家試験が実施された後、早々に開催される。今回の国家試験が診療放射線技師法第17条

で定める“診療放射線技師として必要な知識および技能”を評価する試験問題として適切か評価・検討を行い、その評価・分析結果を速やかに答申する。

診療放射線技師国家試験問題評価委員会(委員名)

○佐野 幹夫 井戸 靖司 丸山 智之 木暮 陽介 腰塚 慎二
安田 光慶 成田 浩人 岡部 圭吾 西澤 徹 丹羽 政美
以上10人

(国家試験問題評価委員会 委員長 佐野幹夫)

テレビドラマ『ラジエーションハウス』 キャストや放送時間が決定!

2019年2月14日(木)、テレビドラマ化が決定した『ラジエーションハウス』の新情報が公開された。主人公の診療放射線技師を演じるのは、俳優の窪田正孝さん、ヒロインの放射線科医を演じるのは、女優の本田翼さんである。本作は漫画雑誌グランドジャンプ(集英社)で連載中であり、診療放射線技師と放射線科医に焦点を当てた作品である。4月スタートの放送はフジテレビで月曜日午後9時から。平成最後の「月9」ドラマに診療放射線技師が主人公となった本作が取り上げられたため、ぜひとも放送を期待したい。

INFORMATION

放射線被ばく相談員講習会 開催される

2019年2月10日(日)・11日(月・祝)の2日間、本会講義室で放射線被ばく相談員講習会が開催された。今回は全国から27人の方々にご参加いただいた。

初めに、中澤会長より放射線被ばく相談員育成制度の意義についてご講義いただいた。そして臨床心理士である塚野先生からは被ばく相談における傾聴の重要性について、HSEリスク・シーキューブ 土屋先生からはリスク・コミュニケー



ションについて、産業医科大学 榎田先生からは内部被ばくを中心に福島の実状についてご講義いただいた。

また新たな講義として、国立保健医療科学院 山口先生、一般社団法人生活環境メタジェーション協会代表理事 早坂先生、副代表理事 半谷先生の3人の講師から、福島第一原子力発電所事故での対応や、病院へ検査の被ばく線量を問い合わせた時の対応について、体験談を交えてご講義いただいた。放射線の専門家である診療放射線技師に、災害被ばくや医療被ばくの相談でどのような対応が求められているのかということ、改めて考えさせられる内容であった。

また座学以外に、模擬被ばく相談対応を含む時間の傾聴訓練(ワーク)があり、日本放射線カウンセリング学会の傾聴訓練指導者により実施された。この傾聴訓練は、座学だけでは習得が困難な傾聴について学習することができるため、毎回受講者から好評を得ている。

今後も、多くの方が本講習会を受講し、放射線被ばく相談員として国民の放射線に対する不安軽減に寄与することを期待する。(放射線被ばく相談員分科会 会長 小松裕司)

環境省大臣官房環境保健部 「原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方について ～WHO国際がん研究機関の報告より～」開催される

2019年3月7日(木)、標記報告会が開催され、中澤会長、木村専門職、地主専門職が参加した。

第1部 特別講演「原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの長期戦略」[Joachim Schuz氏(国際がん研究機関(IARC)放射線部門長)]の後、第2部 パネルディスカッション「原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方について」[コーディネーター：山下俊一氏(内閣官房副長官

補佐室 原子力災害専門家グループ)]が4人のパネリストで行われ、その後、総合討論となった。

特別講演では、甲状腺集団スクリーニングは推奨しないこと、しかしながら、よりリスクの高い個人(胎児期または小児期または思春期に100~500mGy以上の甲状腺線量を被ばくした者)に、長期の甲状腺健康モニタリングプログラムの提供を検討するよう提言がなされた。

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

第17回 読影セミナー 開催される

2019年2月3日(日)、川崎医科大学現代医学教育博物館で第17回読影セミナーが約45人の参加者の下に開催された。

医師の講演では、川崎医科大学附属病院 大山直紀先生に



よる脳卒中患者の画像診断について、倉敷中央病院 島本健先生による大動脈疾患の診断と治療についてご講演いただいた。どちらの講演も普段行っている検査と関連することが多く、診療放射線技師にどのような画像が求められているのか、考えさせられるものであった。

次に、診療放射線技師による講演では、造影CT検査やMRI検査の撮影方法について、疾患別のガイドラインを基に各施設での工夫などを聞くことができた。撮影技術だけでなく画像の再構成処理の内容もあり、実際にワークステーションを用いての解説があった。さまざまな施設での脳卒中や大動脈疾患に対する緊急検査の運用なども知る機会となり、非常に有意義なセミナーとなった。

第29回 ナイトセミナー 開催される

2019年1月28日(月)午後7時30分より、本会事務所で第29回ナイトセミナーが約40人の受講者の下に開催された。当日は、読影分科会会長でもある昭和大学大学院 加藤京一氏が「読影補助の現状と近未来予想図～AIコラボレーションの可能性～」について講演を行った。法令順守も含めた「読影補助」の定義とは何か、実現には何が求められ、チーム医療の中でどのように力が発揮されるのかということについて、実際の症例や全国の現状を基に解説がなされた。また「救急救命医から求められる読影補助」に関するアンケート結果



を用い、救急医療現場におけるニーズやカンファレンス参加の必要性などについて「的確な画像作成も読影補助の範囲である」という言葉も、日々、夜間・休日診療に対応している診療放射線技師にとっては身に染みて理解することができた。後半は「AIとのコラボレーション」について説明があり、すでに全世界的なトピックとなっているAIが、診療放射線技師にとって今後どのように関わってくるのか、最新情報とともに将来展望を語った。講演中何度も話された「われわれも救命率の向上に寄与したい」「全ては患者さんのために」という信念を参加者全員が共有し、明日からの業務へのモチベーションアップにつながるパワーをもらった60分の講演であった。

2018年度 近畿地域診療放射線技師会 学術大会 報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会
近畿地域理事 高嶋 敏光

2019年2月17日(日)、大阪市立大学医学部学舎4階4会場で2018年度近畿地域診療放射線技師会学術大会が、テーマを「Next Stage of Radiological examination～診療放射線技師の新たな使命～」と題して開催された。今回は韓国のソウル市放射線士会8人、プサン市放射線士会8人の参加も頂き、国際色も豊かに総勢348人の参加者を得た。

本大会は、日本診療放射線技師会ならびに近畿各府県(診療)放射線技師会の持ち回り主催で開催しており、本年度は大阪府診療放射線技師会が担当した。

プログラムは、教育講演として本会の中澤靖夫会長より「日本診療放射線技師会の現状と課題」と題して、本会が取り組んでいる4つの事業について説明があり、さまざまな観点から、今後の事業達成に向けた示唆に富む道標を指し示していただいた。特別講演では、北浜法律事務所の弁護士であり医師でもある長谷部圭司先生から「診療放射線技師法の解説と運用上の問題点について」と題して、われわれの根本法である診療放射線技師法について、法律家の視点からできること、できないこと、しなければいけないことなどについて、さまざまな事例を挙げて分かりやすく講演していただいた。一般演題は3セッションから13演題、国際セッションは7演題の発表があり、韓国メンバーと共に近畿会員も流ちょうな英語でそれぞれの研究成果を発表していただいた。シンポジウム①では、大阪北部地震、台風21号襲来、西日本豪雨災害を教訓に「災害時の対応」と題して、放射線機器の安定稼働という観点で4人のシンポジストからBCP・MRI・CT・HISについての話題提供により情報を共有し

た。シンポジウム②では、読影分科会企画「読影の補助はどうなる」というテーマで加藤京一分科会長から「今後の展開～近未来予想図～」と題した基調講演とともに、講師の市田隆雄先生「実現に向けて何をすべきか～撮像技術への展開手法～」、前田啓明先生「実践に向けてどのように取り組むべきか」と題した講演を頂き、今後の取り組みを共有した。女性活躍推進班「関西☆collection」からはアンケート結果報告の後、パネルディスカッション「技師長サミット～コミュニケーションどうしてはりますか?～」と題して、技師長であり管理者でもある4人の方に、テーマに沿って質問する形式でエピソードや対応策について話題提供をしていただき、会場の参加者とのディスカッションを行った。市民公開講座では、元アナウンサーの清水健基金代表 清水健氏から「大切な人の『想い』とともに…」と題した講演で、感謝の言葉とともに大切な人のために今できること、今生きている意味は何かという「想い」について、参加者の涙とともに共有した。ランチョンセミナーは3社の賛助会員のご協力を得て「VNA、クラウド、AI、PACS選定時に知っておくべき最新技術の実際」「AeroDR fine で実現する胸部動態撮影」「Shimadzu Healthcare Solutions と最新医用画像診断装置」を企画し盛況であった。なお、本大会の優秀な演題に贈る学術奨励賞は、日本赤十字社和歌山医療センター 小林弘幸氏の「マスク領域再構成 Xact+ によって再構成されるマスク領域を含む画像の物理特性」が受賞。近畿地域理事賞は、神戸市立医療センター西市民病院 伊田雄貴氏の「地域中核病院における職員の防災意識向上への取り組み」が受賞した。



次期主催開催は京都府放射線技師会が担当し、テーマを「画像技術が果たす役割と新たな可能性を目指す」と題して2020年2月9日(日)、京都テルサで開催する。

結びに、近畿地域診療放射線技師会学術大会は一日開催であるが、さらなる熱意と工夫で一人でも多くの会員

が参加できるように、近畿各府県会長と協力しながら進めていきたい。このたびご参加いただいた会員諸氏ならびに講師の先生方、賛助会員、韓国メンバー、担当していただいた大阪府診療放射線技師会の役員の方々に、心より厚くお礼を申し上げ報告記とする。

学術奨励賞を受賞して

小林 弘幸

日本赤十字社和歌山医療センター
放射線診断科部 診療放射線技師

受賞者の声

このたびは、2018年度近畿地域診療放射線技師会学術大会において学術奨励賞を頂き、誠にありがとうございました。選考いただいた委員の皆さまはじめ学術大会関係者の皆さまに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

以下に、受賞対象となった「マスク領域再構成Xact+によって再構成されるマスク領域を含む画像の物理特性」の一部を紹介させていただきます。

本研究では、320列Area detector computed tomography (ADCT) を利用した最大160mm幅のコンベンショナルスキャン (volume scan : VS) における、投影データの不足によって発生するマスク領域を、対向データを用いて再構成する技術 (Xact+) によって再構成される画像の物理的画像特性と、アーチファクト特性を評価しました。

この再構成技術によって再構成される画像は、投影データ

がそろっている画像領域と区別されることなく臨床画像として提供されています。われわれは、再構成される画像の特性を理解した上で撮影条件を決めなければなりません。このXact+によって再構成される領域 (Xact領域) は、頭部撮影を想定したfield of view (FOV) では、最大で陰極側12mm、陽極側12mmのわずかな領域ですが、VSにおけるX線束の有効利用に有用であると考えます。

本研究によって、画像の物理的特性・アーチファクト特性が明らかとなったことから、今後は、逐次近似再構成がこの領域に及ぼす影響など、他の画像再構成技術との関係性を研究し、さらなる診療放射線技術の発展のために精進してまいり所存です。

最後に、本研究においてご指導いただきました、金沢大学医薬保健学総合研究科保健学域 市川勝弘教授、宮地利明教授に心よりお礼申し上げます。また本研究を遂行するに当たり、多大なるお力添えを賜った金沢大学市川研究室の皆さま、および日本赤十字社和歌山医療センター放射線診断科の皆さまに厚くお礼申し上げます。

還暦に想う

今年は今上陛下の譲位、皇太子さまの即位による改元があり、さまざまな点で大きな区切りとなる年である。4月の統一地方選挙、7月の参院選、10月の消費税10% (予定) など、大きな変化が予測される。ラグビーワールドカップが開催され、東京オリンピック・パラリンピック開催の1年前となる。

「今年」というと、私は年男なので干支のことを考えてみた。今年の干支は10種類の“干”の6番目『己』と12種類の“支”の12番目の『亥』との組み合わせで『己亥』。それぞれ10年と12年サイクルなので同じ干支は60年周期。

今上陛下と美智子皇后さまがご成婚されたのは本年と同じ干支「己亥」で、60年前の1959年 (昭和34年)、私が生まれた年である。陛下はご成婚と同じ干支の年に譲位、そして私は還

暦を迎える。

「60年で十干・十二支の組み合わせが一巡して元の暦に還ることから、「一巡するまで長生きした」ことを祝うようになったという。そして赤いものを身に着ける???

古来、わが国では赤は「魔除けの色」とされ、赤ちゃんの産着には赤色が使われたようだ。つまり暦の一巡は「生まれた時に戻る」という意味でのお祝いということである。

60年前の気分には戻れないが、今年はさまざまなことに対して初心に立ち返って考えてみたいと思っている。「ポーっと〇〇〇〇〇〇ーよ」と言われなかったためにも!

(文責：篠原健一)



INFORMATION

第7回 第35回日本診療放射線技師学術大会 埼玉への道

埼玉県診療放射線技師会
編集情報委員会より

小江戸「川越」、狭山茶「狭山・入間・所沢」

川越市は、全国各地で「小江戸」と呼ばれている町の中でも代表的な町の一つです。メイン通りにある蔵造りの町並みは、昔ながらのノスタルジックな雰囲気を残し、年間約700万人の観光客が訪れます。この町並みが造られたきっかけは、寛永15年（1638年）に起きた大火災と、その後の復興計画にあります。この火災で川越城は全焼、城下町も3分の1が消失したため、再建は大規模なものとなり、現在の

都市計画と同様、土地の区画整備から行われ通りはきれいに整備されました。その後、城と城下町の

再建が終わると、復興を指揮した川越藩主は木材の搬入に使用した川（新河岸川）に目を付け、江戸への流通水路として本格的に整備します。そしてもともとあった陸路も同じ時期に発達しました。川越は、この水・陸2つのルートによって江戸との交流が盛んになり、同じ文化・風習を共有したことから「小江戸」と呼ばれる町となりました。ただし、代名詞である「蔵造り」の建物は後のことで、明治26年の火災で町の中心部が消失した際、焼け残った蔵をヒントとした耐火建築の建築群が造られ、これが今日の「蔵造りの町並み」になります。

そんな川越の「食」といえば「さつまいも・うなぎ」が名物です。メイン通りには、趣向を凝らした「さつまいもスイーツ」のお店が多く見られます。そして「うなぎ」のお店は、創業200年の歴史を誇る名店をはじめ、町中に数多くあります。

JR川越駅へは、大会会場の最寄り駅であるJR大宮駅から電車で20分ほどで行けます。

話は変わり、川越から南側の地域には「狭山市・入間市・所沢市」があり、お茶の産地として知られています。

狭山茶という「お茶」をご存じでしょうか？ 狭山茶の歴史は鎌倉時代に記述があるほど古く、静岡茶・宇治茶と並んで日本三大茶と自称しています。狭山茶摘み歌には「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさず」という文句があり、関東地域の方なら知っているかもしれません。生産の中心は入間市で、入間市茶業公園の高台からは広大な茶畑が眺めます。また所沢市に拠点を置く、プロ野球チーム「埼玉西武ライオンズ」のホーム球場では、ペットボトルの狭山茶が販売されています。野球観戦にビールもいいですが、狭山茶で観戦するのも悪くありません。最近は、海外でも日本茶の人気が高まり、狭山茶も海外へ出荷されています。そして国内では、抹茶ブームの影響から、狭山茶を使ったスイーツのお店が県内で増えています。ちなみにこの地域は狭山茶の直売店がとて多く、通りを歩けば必ず直売店を見掛けます。

最後に、左側にある飛行機の写真は、所沢市の航空記念公園内に展示されているものです。所沢は国内初の飛行場として開設され、日本人が初めて大空に羽ばたいた記念すべき町です。公園内には航空発祥記念館もあります。ご興味があれば、併せてお立ち寄りいただけたら幸いです。





第35回 The 35th
Japan Conference of Radiological Technologists(JCRT)

日本診療放射線技師学術大会

国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

彩の国から未来へ

From Sainokuni to the future

会期
Date

2019年9月14日(土)~16日(月・祝)
September 14(Sat) -16(Mon) , 2019

会場
Venue

大宮ソニックシティ
Omiya Sonic City

会長
President

中澤 靖夫 (公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)
Yasuo Nakazawa (Japan Association of Radiological Technologists)

大会長
Chairman

田中 宏 (公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会 会長)
Hiroshi Tanaka (Saitama Association of Radiological Technologists)

主催
Host

公益社団法人日本診療放射線技師会
Japan Association of Radiological Technologists

共催
Cosponsor

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
Saitama Association of Radiological Technologists

後援
Support

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare
埼玉県
Saitama Prefecture
さいたま市
Saitama City
さいたま市教育委員会
Saitama City Board of Education

大会事務局
Secretary Office

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番3号
TEL:048-664-2728 対応時間平日(月~金曜日) 9:00~15:00
Saitama Association of Radiological Technologists Saitama Prefecture Saitama City Kitaku Miyaharacho 2-51-39
Phone:+81-48-664-2728 Correspondence time Weekday (Monday - Friday) 9:00~15:00



本会の動き

6年制教育検討委員会より

6年制教育検討委員会は日本診療放射線技師会の特別委員会として設置されました。診療放射線技師の教育制度は三年制ですが、現在の卒業生の75%は四年制大学卒業です。これは看護師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士など、他の職種と比べて高い割合です。医療従事者の教育制度の見直しが議論されている中、日本診療放射線技師会では診療放射線技師の6年制教育について機関決定され、6年制教育の在り方や問題点などを議論するために設置されたのが6年制教育検討委員会です。

6年制教育検討委員会は8人の委員で構成され、6年制教育の在り方や問題点について、薬剤師の6年制教育への移行状況などを踏まえて検討するとともに、医学教育・薬学教育・看護学

教育などのモデルコアカリキュラムを参考に、診療放射線学教育モデルコアカリキュラム作成に関する検討を行っています。また2015年の診療放射線技師法改正に伴い、教育課程の単位数が2単位増加しましたが、現在行われている診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会で、臨床実習の単位数増加を含めさらなる単位数の増加が検討されています。特に、医療安全に配慮した教育が重視されており、四年制の学部教育では対応可能な限界に達しつつあります。社会的要請に応えるには、学部教育のみならず大学院教育も充実させていく必要があるため、6年制教育を4+2年の教育とするのか、もしくは一貫した6年の教育にするのかなどについても検討しています。

診療放射線技師のための フレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケットマナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定：

- 佐賀 4月20日(土) 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館 2階多目的ホール
- 群馬 4月21日(日) 群馬県立県民健康科学大学 西棟 1階多目的ホール
- 大阪 6月16日(日) 大阪がん循環器病予防センター
- 三重 7月21日(日) 鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパス B講義棟 1階3513教室

ホームページ閲覧のお願い

INFORMATION

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000004_api.html

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。